古の面影伝える浦道・参道・路地・浜の道。
観るほど、聞くほど、歩くほど、この「まち」が好きになる。

地区別《まち歩きモデルコース》

★距離と時間は「めやす」です。

A 一時一景にやすらぐ《真野浜コース》

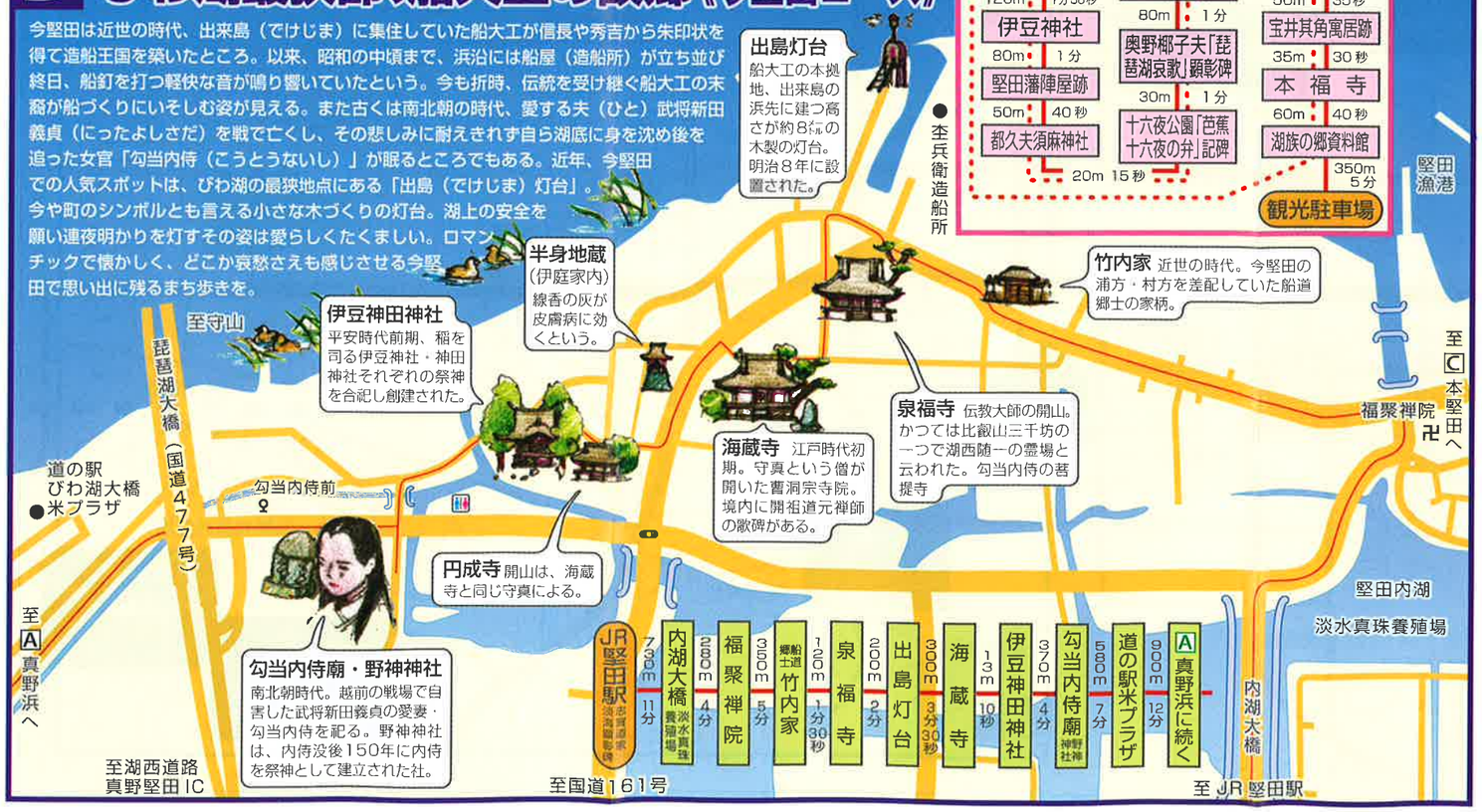
真野浜
遠浅・きれいな水で有名。水泳シーズンには、市内・京阪神からの家族連れでにぎわう。平安末期の武将・源頼政は「近江路や真野の浜べに駒とめて比良の高嶺の花を見るかな」と詠んでいる。

高浜虚子句碑
「このあたり真野の入江や藻刈舟」虚子(1874~1959)は、明治から昭和にかけて活躍した俳人・小説家。

比良山系を背に、弧を描き彼方へとつづく松並木、白沙の浜。時を忘れさせてくれる小波のファンタジア。真野浜は、いまも古歌に詠われた風情そのまま、美しく麗しくやすらぎにあふれている。普段おだやかなその浜も夏は一変、人気の遊泳場に。多くの人々が雄大で清々しい風景に惹かれて訪れる。一時一景、美しくうつろう湖国の四季を満喫してください。

B びわ湖最狭部、船大工の故郷《今堅田コース》

今堅田は近世の時代、出来島（でけじま）に集住していた船大工が信長や秀吉から朱印状を得て造船王国を築いたところ。以来、昭和の中頃まで、浜沿には船屋（造船所）が立ち並び終日、船釘を打つ軽快な音が鳴り響いていたという。今も折時、伝統を受け継ぐ船大工の末裔が船づくりにいそしむ姿が見える。また古くは南北朝の時代、愛する夫（ひと）武将新田義貞（にったよしさだ）を戦で亡くし、その悲しみに耐えきれず自ら湖底に身を沈め後を追った女官「勾当内侍（こうとうないし）」が眠るところでもある。近年、今堅田での人気スポットは、びわ湖の最狭地点にある「出島（でけじま）灯台」。今や町のシンボルとも言える小さな木づくりの灯台。湖上の安全を願い連夜明かりを灯すその姿は愛らしくたくましい。ロマンチックで懐かしく、どこか哀愁さえも感じさせる今堅田で思い出に残るまち歩きを。



出島灯台
船大工の本拠地、出来島の浜先に建つ高さが約8㍍の木製の灯台。明治8年に設置された。

半身地蔵（伊庭家内）
線香の灰が皮膚病に効くという。

伊豆神田神社
平安時代前期、稲を司る伊豆神社・神田神社それぞれの祭神を合祀し創建された。

勾当内侍廟・野神神社
南北朝時代。越前の戦場で自害した武将新田義貞の愛妻・勾当内侍を祀る。野神神社は、内侍没後150年に内侍を祭神として建立された社。

竹内家 近世の時代。今堅田の浦方・村方を差配していた船道郷士の家柄。

泉福寺 伝教大師の開山。かつては比叡山三千坊の一つで湖西随一の霊場と云われた。勾当内侍の菩提寺

海蔵寺 江戸時代初期。守真という僧が開いた曹洞宗寺院。境内に開祖道元禅師の歌碑がある。

円成寺 開山は、海蔵寺と同じ守真による。

C びわ湖の水運・漁業・湖上関を支配し、自治の都市を築いた 堅田衆（湖族）の本拠地《本堅田コース》

D 古代遺跡と伝説の郷《衣川コース》

マップの4つのまちのなかで、最も早く開かれたのが衣川の地。まちには、5世紀代からの古代豪族の古墳をはじめ飛鳥時代にさかのぼる巨大寺院跡、大友皇子を祀る社や授子安産・盛業祈願の社などが伝えられる。また、地名の起りや壬申の乱、大友黒主などにまつわる秘話も数多い。さらに、北国街道の宿場として栄えた歴史も見える。